令和８年１１月６日

今日は、臨時会見でありますけれども、補正予算、１２月の補正予算でございますが、これをお話をさせていただきたいと思います。通常、この時期、１２月には、未執行でありました予算、これを回収、総務部の方に回収をして、節約といいますか、それについては未執行ということで、再度配算するかどうかを決めるようなことをやりますので、必ず補正予算、１２月にはあるんですけども、今回政策的なものが四つございますので、それを発表させていただきます。なお、全体像につきましては、事務的な補正も含めまして、それは後ほど担当の方から話をさせていただきます。１２月補正でやらせていただきますのは四つございます。

一つは、中東の原油費の高騰、あるいは人件費の高騰などに端を発します、中小の事業者の運転資金を中心とした借り入れのための保証料、そして利子補給。これは後ほど詳しくお話ししますけど、それで、もう既に借り入れ、かなりの事業者がやっておられるということでありまして、追加ですね、信用保証協会などに追加をするということです。枠を広げるものだと思っていただければと思います。それが１点目。

２点目は、文科省がやっております先進校、各県の二つ、三つ、四つぐらいございますけど、を対象とした高校の教育のあり方の変換。N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想というふうに国はおっしゃっていますけれども、６０億の基金の数字上いただいてございまして、令和８年度、三重県では３校認定をいただいておりますので、その３校に対して、実際に高校教育改革のために資金支出をするというものでございます。その追加支援ですね、価格高騰の影響２億4,000万円、N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール、これ３校の設備改修等に使うお金として１億2,400万、６０億積み立てたものからこれだけの支出をするということです。

３点目ですが、幼稚園教諭の人材確保のための人材バンク、これは、各自治体でやっておられる例はあるんですけれども、県で人材バンクを設けて、市あるいは町の行政区域を超えて他の市に住んでおられる方でも、別の市で働くということであれば、そのマッチングをするということで、市域町域を超えた人材バンク制度でございます。これは今まで保育士はやっておりまして、平成２５年に始めまして、令和７年度にアウトリーチ型で拡大したんですが、幼稚園教諭は三重県で初めてということでございます。なお、これについては、文科省の補助制度、受託制度といった方がいいですかね、受託制度がございまして、その受託を受けたのは三重県が初めてということでございますので、文科省の制度を活用させていただいているのは、三重県が日本で唯一ということになります。今後出てくる可能性はあります。それが500万円でございます。

それからもう一つ、地域未来基金でございますけれども、これは地域未来構想の実行のために、国が基金を作るためのお金を交付してもらっています。これは約７０億でございます。これを基金をつくるということで、他県ではもう既につくっているところもあるんですけれども、今まで実は国の方から明確に作るようにという指示がなかったものでございますから、この指示を私ども、９月に受けまして、９月補正に間に合わなかったので、１２月補正でこれを実行するというものでございます。

それでは、少し詳しくお話をさせていただきます。これは既に制度としてあるものでございまして、それの追加財政支出と考えていただいたらいいんですけど、中東情勢、油、原油価格の高止まりなどでございますけれども、これは一般の中小企業などへの対応です。中小企業、そして小規模企業の資金繰りへの対応ということで、６月補正で融資枠を４０億設定しましたけども、200 億の融資枠に拡大をするというものでございまして、中身は二つあります。一つは利子補給、そしてもう一つは保証料の補助ということでございます。信用保証協会に対する補助ということになります。実際の数字でございますけれども、８年度の保証料と８年度の利子補給ということで、１億 2,600 万円に、今後返済が５年間ございますので、その分の債務負担行為をつけているというものでございます。

もう一つは、魚類の養殖をされている方々の配合飼料、これも、既に令和７年２月の補正、これ繰越をしましたけれども、配合飼料の価格高騰対策ということで、県の補助金を、制度をつくりました。これに対しての追加財政措置ということで、1 億 1,400 万円でございます。

もう一つがＮ-Ｅ．Ｘ．Ｔ．（ネクスト）ハイスクール構想でございます。三重県は３校認定をしていただいております。改革先導校ということで、四日市工業、これ半導体を中心としたものづくりのための人をつくっていこうということでございまして、半導体ラボの整備とか、探究科目を新設するということでございまして、１２月の補正という意味では、外部委員半導体ラボの整備のための技術審査会というのを設ける予定にしてまして、ソフト的な部分の支出です。四日市工業と並んで相可高校ですね。もう一つは相可高校、これは食×農の新たな価値を創造するということで、農業者だけではなくて、レストランの経営まで直結をした勉強していこうということでございます。詳細は教育長からお話があったと思いますけれども、その新しい食、レストラン、あるいは農業の勉強をする方々の高校生のための備品の整備などを行う。また、農場とか果樹の整備も測量を行う、整備のためにですね。それで三つ目が伊勢高校です。伊勢高校は、これは四日市工業とやや似ているんですけれども、三重県ものづくり優位な県でございますが、例えば半導体。半導体は高校を卒業して企業で働く人もいますが、伊勢高校は高校を卒業して半導体企業で働いてもいいんですが、伊勢高校を卒業して大

学に行って、半導体企業、三重県にある半導体企業で働くということもイメージをしておりまして、その高校生が高校時代に半導体などについて学んでもらう。これは半導体だけではありません。今、各自治体で土木職が非常に少なくなって、これは三重県だけではなくて日本各地で起きていることなんですけども、伊勢高で学んでいた学生は、大学に行くことも方もおられると思うし、また直接就職する人もいるかもしれませんけれども、公、県、市、町を中心に、土木の資格を持って働いてもらう。これ大学入って、工学部の土木科で勉強して、また戻ってきていただいてもいいんですけれども、そういうような人を養成する。従って、先進的な産業、ＡＩでありますとか、半導体でありますとか、あるいは化学というのもあるかもしれません。そういったところで働く人、土木職で働く人、そういう人たちをつくるというふうに考えておりますが、まあ視察、いろんな学校を見てくる必要があるので、まずは視察のための予算を伊勢高校分については考えているということでございまして、トータルで１億2,400万です。

そして、最後でありますけれども、幼稚園教諭、先ほど申し上げましたけれども、保育所って347カ所あります。幼稚園は県内に229カ所ありまして、幼稚園教諭は三重県内で961人おいでになります。保育園は8,908人。保育園のほうが先生が多いんですが、幼稚園もずっと慢性的に、人手不足の状態です。有効求人倍率を見ますと、保育士2.95でなかなか確保できない。そこまでには至っていないんですけど、幼稚園教諭も2.71ですから、ほとんど確保できない。全職種でという1.14ですから、それでも人手不足と言われているんですが、幼稚園教諭を市域、町域を超えてマッチングするための人材バンクを県で創設をするものであります。これは、文科省の受託事業としてやりますのは日本で初めてということになります。今後、他県でもやられるのではないかというふうに思っているところです。実際に何をやるかと。人材登録して、就職支援をして、定期的に情報を提供することをやらせていただくものでございます。

以上４点が政策的な事項でございますので、私の方から報告をさせていただきました。

もう一つあって、これは、この予算につきましては、１１月の１９日に議会上程を行いたいということで、議会と調整を今しているというものでございます。